

数歩先からスタートする

デジタルやネットワークが人にどのような影響を与えるか。非常に大きなテーマですが、最近になって再びこの問いについて考えるようになりました。たとえば、よく議論されるように、子供がテレビゲームに熱中して外で遊ばなくなるのはいいことなのか、悪いことなのか。電子商取引やネットワーク教育が普及して、対面でのやりとりが減ることは我々にとってプラスなのかマイナスなのか。

人は車に乗ると性格が変わるといいます。普段はおとなしいのに、ハンドルを握ったとたんに「バカヤロー」などと怒鳴る人。いつもは親切なのに、渋滞時に車線変更しようとする車を絶対に割り込ませない人。そもそも、車社会というのは「意地悪」がベースになっているようにも思います。まあ、運転は命懸けな部分もありますから、冷たくなるのもわからなくはありません。

インターネットも車社会に似ていますね。メーリングリストや掲示板に参加したとたん、態度が大きくなる人をよく見かけます。どうやら、車とインターネットには共通点がありそうです。つまり、両者とも裸の自分にはない「パワー」を与えてくれる、そんな気分にしてくれるんですね。その証拠に、車もインターネットもある種の勇気が必要とする異性とのコミュニケーションによく使われます。私の若いころは「車がなければ彼女はできない」などと言われたものです。いまはもちろん「出会い系」です。

おそらく、このあたりがもっともわかりやすい「ネットワークが人に与える影響」だと思います。でもよく考えると、車もインターネットも限られた人だけが使っている間は特権となりますが、その普及とともに「あたりまえのもの」になります。自動車先進国のアメリカでは車はただ

photo: Kaizuka Jun-ichi

の「足」です。そもそも、いまだき車を持っているだけではデートもできません。現在、日本のインターネット普及率は40パーセント程度。かなり微妙な数字ですね。勘のいい人なら、そろそろ特権ではなくなったと感じていることでしょう。

今月号の特集で「ネットワーク時代の教育を考える」シンポジウムを取材しました(196ページ)。米国から招かれた教育関係のプロフェッショナル5人が講演をしましたが、もっとも興味深かったのは「教育にネットワークを活用することがあたりまえ」という前提で話が進められたことです。ロサンゼルス市教育委員会のジョン・W・エバンズ氏は「マークシート式で知識を評価するテストは意味をなさなくなった」と語ってくれました。ネットワーク化された教室では、ウェブにアクセスするだけでありとあらゆる知識を即座に入手できるからです。ロスの子供たちは知識を覚える力ではなく、応用したり、分析したりする能力で評価されているわけです。

先にお話したように、車やネットワークはある種の「パワー」となります。「人に欠けている能力を補うもの」と言い換えてもいいでしょう。これをすべての人が使えるようになったとき、我々は数歩先からのスタートが可能になります。教育で言うならば、歴史の年号を暗記して、数学の公式を覚えて、化学式を空で言えるようになるといった「知識」部分をウェブが補ってくれます。私たちが12年の時間を費やした「勉強」をすっ飛ばして、ロスの子供たちはいきなり「考えること」を始めるのです。

もちろん、知識も重要ですが、ネットワークによって教育の本質への近道ができたと言えないでしょうか。冒頭の問い「デジタルとネットワークの影響」に対する1つの答えがここにあります。物事の本質に迫る最短の道を進めるようになること。そう言えば、デジタル世代の子供がダメになるという懸念がありました。194ページの笑顔を見ると、それほど心配しなくてよさそうですね。 [kurazono]



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp